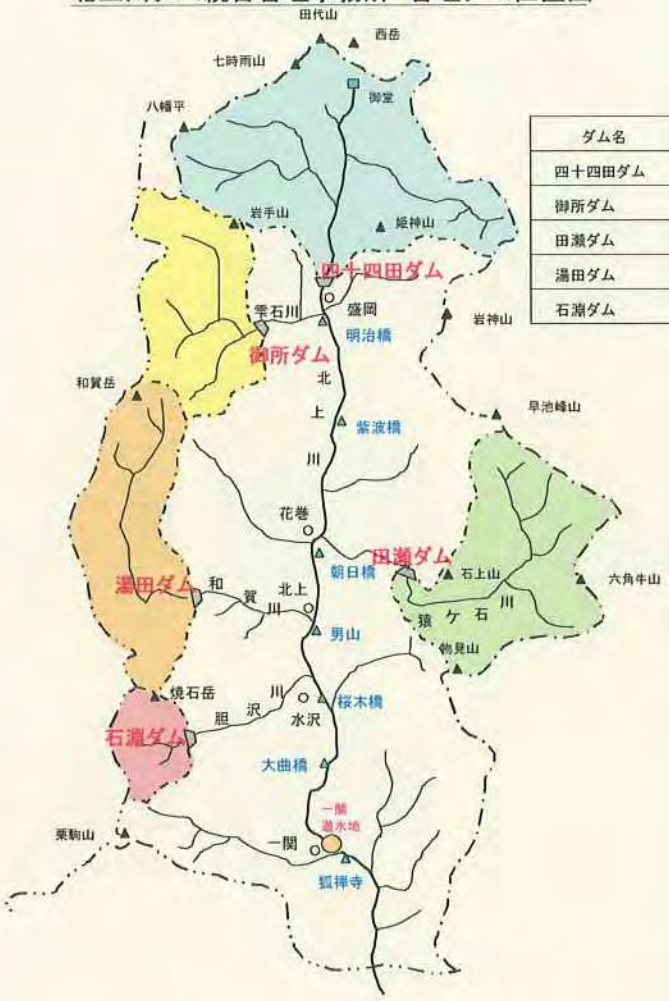
＜予算概要＞

国土交通省北上川ダム統合管理事務所は、北上川上流域（岩手県分）にある５ダムを管理しております。

当事務所の平成１９年度の予算は以下のとおりです。

北上川ダム統合管理事務所　管理ダム位置図



ダム名	完成年	経過年数
四十四田ダム	昭和43年	39年
御所ダム	昭和56年	26年
田瀬ダム	昭和29年	53年
湯田ダム	昭和39年	43年
石淵ダム	昭和28年	54年

＜予算内訳＞

単位：千円

	平成18年度	平成19年度	対前年比	備　考
直轄堰堤維持費	2,904,030	3,239,003	1.115	
水系環境整備事業費	290,000	100,000	0.345	
計	3,194,030	3,339,003	1.045	

○直轄堰堤維持費

ダムの機能を維持するとともに、老朽設備や損壊箇所等の修繕を行う予算です。

○北上川水系直轄総合水系環境整備事業費

北上川水系の水辺環境や水質環境等の総合的な環境対策を行う事業で、ダムにおいては貯水池の水質保全対策や貯水池周辺の環境整備等を行う予算です。

＜事業概要＞

①湯田ダムにおいて水源地域ビジョン推進を支援するため、湖岸利用施設等の整備を促進します。

湯田ダムでは、水源地域の自立的・持続的な活性化を図ることを目的として流域住民と関係行政機関、自治体が一体となって「水源地域ビジョン」を平成１６年度に策定しています。

この湯田ダム水源地域ビジョンは、ダム湖面周辺の資源を生かす地域づくりが一つの柱になっていることから、**ビジョン推進を支援するために西和賀町大石地区においてレクリエーション広場の整備**を行います。

湯田ダム貯水池（錦秋湖） 環境整備計画図







大石地区整備イメージ

【平成１９年度の事業費及び事業内容】

○事業費：１００百万円

○大石地区における湖岸整備（レクリエーション広場・親水護岸）事業の完成を目指します。

【事業効果】

○湖岸整備によりダム湖面（錦秋湖）への親水性や景観的な魅力が向上します。

②田瀬ダムにおけるアオコ発生抑制対策施設の稼働を実施します。

田瀬ダムの貯水池は、約９，４４０haの水田に灌漑用水を供給しています。また、漕艇場として全長２，０００mの国内Ｂ級コースとして認定され、オリンピック代表や関東圏の大学が合宿に訪れているほか、平成１１年度全国高等学校総合体育大会のコースとしても使用されているなど多くの大会が開かれており、漕艇場としての評価も高く且つボート利用も多い場所です。

また、ダム湖畔には釣り公園やオートキャンプ場、ヨットハーバー、親水公園などが整備され、数多くの方々に利用されています

しかし、**近年、アオコの発生が顕著化し、安全な水利用が懸念されるほか、ボート利用の支障となったり、憩いの場として利用されている箇所の水環境の悪化が懸念されることから、水質の改善が必要**となっていました。

本施設は、**田瀬ダム貯水池内に設置した曝気循環施設であり、貯水池内の水環境を総合的に保全する為に平成１８年度に完成した施設を平成１９年７月から稼働**するものです。

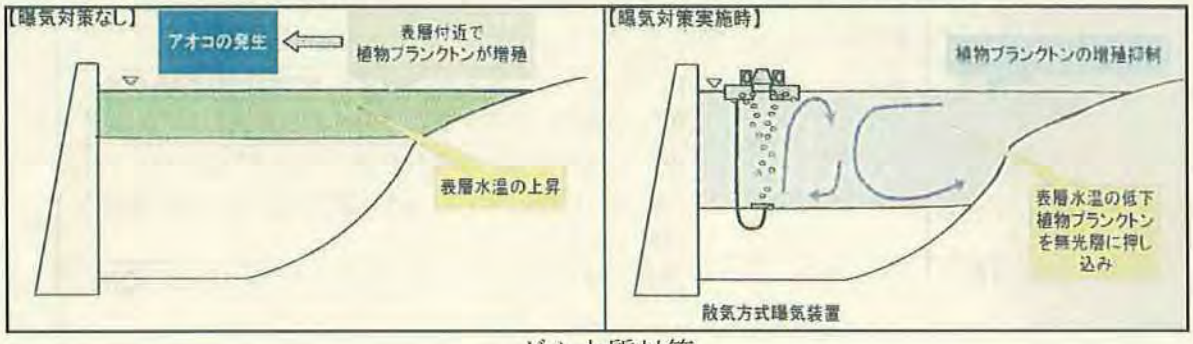
【水質保全対策の概要】



アオコ発生状況



田瀬ダム貯水池平面図



ダム水質対策

【事業効果】

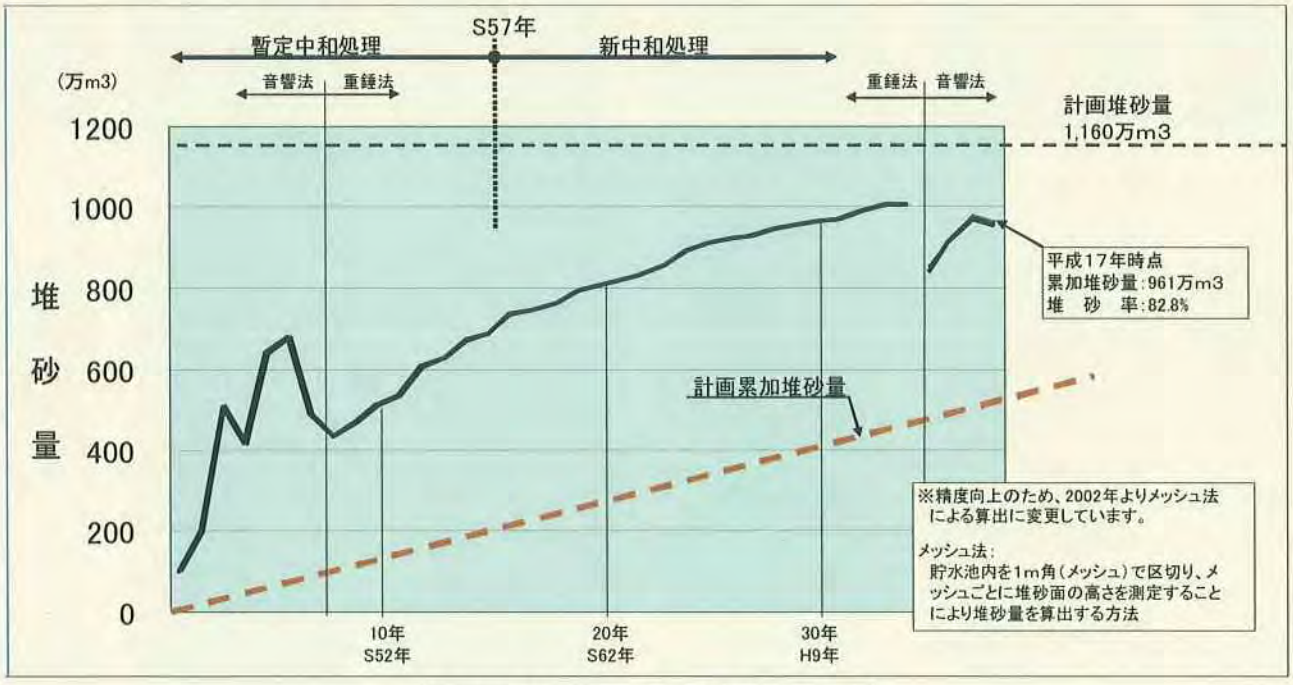
○水質を保全することにより、安全な水利用及び湖面利用を図ります。

③四十四田ダムにおける堆砂対策の検討を進め、平成１９年度内を目標に対策の方向性を示します。

四十四田ダムは昭和４３年の完成以来３９年を経過しています。この間、堆砂の進行が顕著であり、平成１７年時点での堆砂量は、ダム計画であらかじめ見込まれている堆砂容量の約８３％に相当する約９６１万m3まで達しています。今後さらに堆砂が進行すれば、ダム機能の低下も懸念されます。

こうした堆砂進行の背景として、旧松尾鉱山坑排水に起因する酸性水対策である中和処理事業があげられます。かつての中和処理による生成物が様々な物質を付着させながら貯水池内に流入・堆積し、堆砂が進行したことが考えられています。また、堆積した土砂は深部に重金属類を含んでいることから、既堆積物の取り扱い、河川水質への影響なども併せて検討課題となります。

四十四田ダムの堆砂の問題については、量的な課題、質的な課題を総合的に検討・整理の上、「四十四田ダム貯水池堆砂対策検討委員会」（平成１８年３月設立）で審議いただき、年度内を目標に対応策について方向性を示すこととしています。



四十四田ダム堆砂量経年変化図



四十四田ダム上空より盛岡市を望む

④ダム放流警報等の強化を図るとともに、よりわかりやすい情報提供に努めます。

洪水時にダム放流を行う際には、河川の利用者や沿川の住民に対して警報スピーカー等を使った音声放送や関係機関への通知によりダム情報の提供を行っています。

しかし、近年の河川利用者の増加や全国で多発している集中豪雨等による洪水被害の発生に鑑み、平成１８年度までに河川利用者の多い市街地周辺にダム情報表示板の整備を進めてきました。

平成１９年度からは、情報表示板の有効利用によりダム放流警報の強化を図るとともに、**わかりやすいダム情報をより確実に提供する**ため、広報資料やインターネットを活用したダム情報提供の充実を図ります。

ダム放流警報表示板　整備状況

ダム名	河川名	大型表示板	小型表示板	備考
四十四田ダム	北上川	3箇所	9箇所	平成19年より稼働開始
御所ダム	雫石川	1箇所	9箇所	
湯田ダム	和賀川	1箇所	7箇所	平成19年より稼働開始

○四十四田ダム下流（盛岡市街地）におけるダム放流警報の強化

ダム放流時における下流河川の増水状況





普段は憩いの空間となっている川辺の遊歩道もダム放流時には浸水の恐れがあります。

四十四田ダムでは河川利用者の安全を確保するため、遊歩道の入り口に簡易表示板を設置し、ダム放流警報の強化を図ります。



簡易表示板設置による河川利用者への注意喚起

○湯田ダム下流（北上市街地）におけるダム放流警報の強化

ダム放流時における下流河川の増水状況







河川公園や散策路の利用者に
わかりやすい情報提供



利用者の多い河川公園などの入り口に
簡易表示板を設置して放流警報を強化

湯田ダム下流の和賀川は、北上市街地と隣接しており、河川公園や散策路が整備され、市民に親しまれています。

こうした状況から、ダム放流情報をわかりやすく、確実にお知らせするため表示板を設置し、
河川利用者の安全確保に努めます。

○ダム下流の注意箇所等に関する広報資料の活用

**河川利用者にわかりやすい
ダム情報の提供に努めます**

フィールドガイド（表）には、ダムの役割や放流時の注意事項、ダム情報の入手先、川遊びの注意事項などが記載されています。







フィールドマップ（裏）には、増水時の注意箇所や放流警報のルートなどが記載されています。

また、河川利用者が携帯できるようにコンパクトサイズになっています。

⑤水源地域ビジョンを地域と一体となって推進します。

これからのダム事業（管理を含めた）においては、ダムの機能を十分に発揮するため、水源地域の自立的・継続的な活性化を図り、水源地域の機能を維持することが重要であると認識しています。

この水源地域の自立的・継続的な活性化を図ることを目的として、流域住民と関係行政機関及び自治体が一体となって「ダム水源地域ビジョン」を策定し、地域と共に推進していくこととしています。

①四十四田ダムの水源地域ビジョンの平成１９年度策定を目指します。

北上川５ダムついては、御所ダム、湯田ダム、田瀬ダムにおいてビジョンが策定されており、平成１７年度から四十四田ダムにおいて策定に着手しています。平成１９年度は策定委員会を設立し、ビジョンの策定を目指します。

②御所ダム・湯田ダム・田瀬ダムのビジョン推進を支援します。

・御所ダム及び湯田ダムの水源地域ビジョンについては、推進委員会を中心に、地域住民や、関係機関と連携してビジョンの具体的な実施項目について事業の推進を図ります。

・田瀬ダムについては、ビジョン実現のための組織づくりを進めており、平成19年度には推進委員会を設立し、ビジョンの具体的な実施項目の推進に向けた事業に着手します。



湯田ダムビジョン推進委員会設立総会(H18.6.1)

